

# 2019年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

## 品質向上は天候に左右されない「土づくり」と「根づくり」から

アルプス農業協同組合  
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
m <sup>2</sup> 当たり穂数(本)	400
1穂着粒数(粒)	70
m <sup>2</sup> 当たり着粒数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 5/15を中心とした田植えと70株植の推進
- 溝掘りと田植後1か月以内の中干し
- 適期に適正な防除で被害を防止
- 水管理の徹底
- 適期収穫



**品質向上は土づくりから**

資材名	標準施用量 (kg/10a)
粒状ケイカル	200
元 氮	100
シリカロマン	100
シキョーライトP	100

**【土づくり資材の施用】**

**【飽水管理の方法】**  
3cm程度入水後→自然落水→足跡の水がなくなる前に入水(出穂始め頃まで繰り返す)

**【飽水管理の効果】**  
①根が常に水分吸収可能な状態を維持することで急激な葉色低下を防ぐ  
②肥料持ちを良好にする

**【中干しの目安】**  
足が少し沈む程度 (粘質田) / 弱いヒビが入っている (黒ボク・砂質田)

**【草刈りの徹底】**  
●7月上旬までに畦畔や雑草地の草刈りを終える。  
●幼穂形成期から飽水管理。  
●7月上旬までに畦畔や雑草地の草刈りを終える。

**【適正な穂肥】**  
●葉色が淡い場合は、出穂前に追加穂肥を施用する。  
●2回目穂肥は1回目穂肥から1週間後を目安に施用する。  
●1回目穂肥は葉色と幼穂長15cmを確認してから施用する。

**【出穂後20日間の湛水管理】**  
●生育ステージに合わせて防除を実施する。  
●フェーン時はあらかじめ入水する。  
●刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。

**【適期収穫】**  
●初熟化率85~90%頃に刈り取る。  
●高温年は80%から。

**【土づくり】**  
●稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。  
●土づくり資材や堆肥を施用する。

**【土づくり】**  
●19mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。  
●水分14.5%に仕上げる。

**【適正な乾燥調製】**  
●刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。

**刈取時期判定の目安**  
籾の熟色で刈取適期を判定  
株内の平均的な熟色をみる  
(初熟化率85~90%)  
青緑色の2次枝梗が黄化した時

**4月25日を中心とした播種**

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心とする。  
○育苗日数は20日以内を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/18頃	5/10	7/31頃
4/16頃	4/25頃	5/15	8/3頃
4/24頃	5/2頃	5/20	8/6頃

育苗日数が20日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は70株/坪

**溝掘りと田植え1か月以内の中干し開始**

○中干しが遅れると、弱勢分げつが多く発生したり、根が少なくなり品質が低下しますので田植えの1か月以内を目安に、遅れないよう中干しを開始する。  
○中干し開始前には、圃場全体へ入排水を短時間で均一に行うため、溝を設置する。

**適正な中干し**

●葉が直立  
●茎が太い  
●根が多い

**中干し未実施**

●下葉が枯れる  
●茎が細い  
●根が少ない

中干しの有無による稲の姿  
乗用管理機での溝掘り

**適期で適正な防除で被害を防止!!**

**病害虫防除体系**

**【育苗基本防除】** 苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネツトムシ、イネドクイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	葉いもち、イネミズゾウムシ、イネドクイムシ、イネツトムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、(白葉枯病)
エパーゴルフワイド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドクイムシ、イネツトムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※紋枯病の常発地の場合

**【本田基本防除】** 粉剤、液剤体系

防除時期	随時防除		基本防除	
	紋枯病の発生が多い圃場	紋枯病+カメムシが多い圃場	種 播 期	傾 種 期
出穂10日前頃	出穂開始(随時)	種 播 期	傾 種 期	
粉 剤	バリダシ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドキアラ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液 剤	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) M.R. ジョーカー-EW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対 象 病害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※対象病害虫の( )内は移植3日前~移植当日のみ登録あり

**除草剤散布は遅れずに**

**雑草防除体系**

- 5cm程度の水深を確認する。
- 除草剤散布後7日間は落水やけが流しをしない。

**体系処理(初期剤+中期剤または一発処理剤): 雑草の発生が多い圃場**

初期剤: メテオ1キログラム (田植時・田植直後~5日まで) / マゼット1キログラム (田植時・田植直後~5日まで) / メテオフロアブル 500mg/10a (田植時・田植直後~5日まで)

一発処理剤を散布 (初期剤散布の7~10日後散布)

中期剤: ビイゴールSM1キログラム (田植後20~30日 ノビエ3.5葉期まで) / サンパンチ1キログラム (田植後15日~ノビエ3.0葉期まで (但し、収穫60日前まで))

**一発処理(初中期一発剤): 雑草の発生が少ない圃場**

ウイナー1キログラム51 (田植時・田植直後~5日まで) / アビログロウMX1キログラム (田植後3日~ノビエ2.5葉期まで) / ガンガン豆つぶ 250g/10a (田植後3日~ノビエ2.0葉期まで) / ウイナー1キログラム500 (田植時・田植直後~5日まで) / アビログロウMXジャンボ 400g/10a (田植後3日~ノビエ2.5葉期まで) / サラブレッドRXフロアブル 500mg/10a (田植時・田植直後~5日まで)

※雑草が残った場合 [ノビエと広葉雑草が残った場合]  
テックン1キログラム 1kg/10a 田植後15日~ノビエ4.0葉期 (但し、収穫60日前まで) / テックンジャンボ 500g/10a 田植後15日~ノビエ4.0葉期 (但し、収穫60日前まで)

【広葉雑草が残った場合】  
パサグラン粒剤 3~4kg/10a 落水散布 田植後15日~55日 (但し、収穫60日前まで)

【ノビエが残った場合】  
クリンチャー1キログラム (ノビエのみ) 1kg/10a 田植後7日~ノビエ4.0葉期まで 1.5kg/10a 田植後25日~ノビエ5.0葉期まで (但し、収穫30日前まで) / トドメ1キログラム (ノビエのみ) 1kg/10a 田植後14日~ノビエ5.0葉期まで (但し、収穫50日前まで)

**初期除草剤の適正使用**

①代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。  
②軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。  
③薬害軽減のため、初期除草剤マゼット1キログラムは移植後3日以降の使用とする。  
●田植同時除草剤は、薬害を受けやすいことから、上記の①を守り田植後の入水をゆるやかにする。

**土壌に応じた適正な施肥量**

**コシヒカリの基肥施用基準** 生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施体系(基肥+穂肥2回)						
	<標準タイプ>	<省カタイプ>	基 肥	穂 肥					
砂壤土 壤 土	LPss コシヒカリ1号	35	けい酸加里入り LPssコシヒカリ	45	基肥206 又は 基肥555	32 26	追肥3号	10	13
	半湿田 黒ボク土	LPss コシヒカリ2号	30	けい酸加里入り LPssコシヒカリ2号	40	基肥206 又は 基肥555		25 20	10
粘質土		LPss コシヒカリ2号	27	けい酸加里入り LPssコシヒカリ2号	35	基肥206 又は 基肥555	23 19	10	10

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!